

石巻市内で活動している社会福祉法人のご紹介

第8回インタビュー

社会福祉法人和仁福祉会

平成28年4月から改正社会福祉法により、社会福祉法人による「地域における公益的な取組（社会貢献事業）」の実施が法人の責務として位置づけられました。

この取組は、次の3つの要件をすべて満たすことが必要となります。

- (1) 社会福祉事業または公益事業を行うに当たって提供される「福祉サービス」であること
- (2) 「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービスであること
- (3) 無料または低額な料金で提供されること

具体例としては

- ・夏祭り等、イベントの開催による住民間のつながりの再構築
- ・働き手が少ない商店街との連携による就労支援
- ・公共交通機関がない地域での移動支援や買い物送迎支援
- ・災害支援ネットワークによる避難所支援
- ・刑余者の自立支援に向けた自立準備ホームの登録


などが挙げられます。

石巻市内にはたくさんの社会福祉法人がありますので、実際にどんな社会貢献事業に取り組んでいるのか、順番にご紹介していきたいと思えます。

今回は「社会福祉法人和仁福祉会」さんをご紹介します。

インタビューにお答えくださった方は、理事兼仁風園施設長の中村泰仁さん、課長の尾形菜緒子さんの2名です。

社会福祉法人和仁福祉会

- | | | |
|---------|--|---|
| ■法人所在地 | 石巻市山下町一丁目11番22号 |  |
| ■電話番号 | 0225-93-8353 | |
| ■ウェブサイト | http://www.wajinfukusi.jp/ | |
| ■設立年月日 | 昭和56年8月4日 | |
| ■事業 | 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、短期入所生活介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護、軽費老人ホーム、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター | |
| ■施設・事業所 | 特別養護老人ホーム和香園、特別養護老人ホーム第二和香園、特別養護老人ホーム仁風園、特別養護老人ホーム涼風園、石巻デイサービスセンターやすらぎ荘、石巻稲井デイサービスセンター、石巻市大森デイサービスセンター、万石浦デイサービスセンター、認知症高齢者グループホームぬくもりの家、ケアハウスしおさい、稲井居宅介護支援事業所、大森居宅介護支援事業所、万石浦居宅介護支援事業所、石巻市稲井地域包括支援センター、石巻市河北地域包括支援センター | |
| ■社会貢献事業 | (1) あおぞらマーケット
平成29年に「あおぞらマーケット」を開催。きっかけは、地域の中で余っている野菜をどうしたら良いか悩んでいる地元農家の方や買い物へ行けない高齢者の方を知ったからでした。農家の方は販売している野菜の調理法などお客さんに伝え、自然と交流が生まれました。
今後も地元農家や商店の方たち、地域住民の方たちとの交流が図れる橋渡しにしたいと思っていた矢先に平成30年台風19号、令和2年にはコロナウイルス感染拡大があり、やむなく中止にせざるを得ない状況となりました。 | |
| | (2) おおもり食堂
あおぞらマーケットの開催継続が難しくなり、その転換事業として職員で知恵を出し合い、令和2年から「おおもり食堂」を開催することとなりました。地元の農家から仕入れた野菜を中心に作ったお弁当とレシピ集を地域住民の方たちへ提供しました。直接の関わりは難しいものの、今後も人との関わりに重点を置いた事業展開を行っていきたいと考えています。 | |
| | (3) 夏祭り
各施設において、毎年夏祭りを開催しています。入居者の方だけでなく、近隣住民の方たちも招待していました。近年はコロナウイルス感染拡大の影響もあり、入居者の方と職員だけの開催となっています。 | |

——今回は高齢福祉を担う社会福祉法人として、和仁福社会さんをご紹介します。和仁福社会さんで行っている社会貢献事業についてお聞かせ下さい。

中村：最初のスタートは、地域の農家さんからの相談でした。「廃棄処分する農作物を上手く使える方法はないか？」という相談で、農作物のほとんどの物が余ってしまい、廃棄処分していることを知りました。廃棄処分する物と言っても、まだ食べることができるとても立派なものでした。



中央が理事兼仁風園施設長中村泰仁さん、
左が本部事務局課長尾形菜緒子さん

平成28年、当法人でも社会貢献事業について探っているところだったので、他の地域住民の方も何かニーズがあるのではないかと考え、地域の方々へアンケートとニーズ調査を行いました。

その結果、「最近みんなで集まる機会がない」、「買い物へ行く足がない」、「高齢者向けの食事のレシピを教えてもらいたい」などの意見がありました。そういった声から、今できることを探っていくことになりました。

まずは顔見知りの関係作りの土台を作

り、その延長線上に支え合いの関係作りに繋げていきたいという思いから、平成29年に「あおぞらマーケット」を開催。

地域の人たちが集まって、農作物や地域にあるお店（精肉店や和菓子店など）にも参加してもらいました。地域の方から「この野菜どうやって調理するの？」と質問があり、農家の方や当法人の栄養士から「こうすると美味しいよ」という会話の中から、そういった関係作りに繋げていけたかと感じています。地域の方を援助するというより、地域の方の元気や活力に繋がればと思っていたので、そういうところにも繋がられたと感じています。

平成30年、2回目となる「あおぞらマーケット」は、規模を拡大して開催。雨のため屋内での開催となりましたが、みなさん楽しんで参加くださったようです。3回目は更に規模を拡大して開催したいと思っていた矢先に、令和元年台風19号が発生。農家の方たちも被害に遭われてしまい、中止となりました。



あおぞらマーケットの様子

令和2年にはコロナウイルスが流行し、別の形での関わりを見出す方法はないかということで、職員同士で知恵を出し合い「おおもり食堂試食会」を実施。

コロナ禍だからこそ、何か関わりを持てる方法を探っていこう、できることをやっていこうと考え、たどり着いたのが「おおもり食堂試食会」でした。お弁当を作り、みなさんには距離を保ちながら会場で食べていただきました。当日は「久しぶり」という会話が多く聞かれ、みなさんとの関係や絆を再確認できる場となりました。

令和3年は11月13日（土）に2回目となる「おおもり食堂試食会」を開催することができました。



おおもり食堂試食会の様子

——「あおぞらマーケット」へ参加した農家の方々が作った農作物を「おおもり食堂試食会」で使ったのですか。

中村：そうです。地域の恵みを感じてもらおうという意見から、農家の方々に協力をいただきました。試食会で提供した料理のレシピブックも作成しました。

これまでは施設利用者の面会者に向けて、掲示板で施設の料理レシピを出していました。ただ、今は面会ができないので、レシピ集とりハビリ内容をまとめた冊子を作成して配布しました。



地域の方々との話し合いの様子

——お忙しい業務の中、地域の方々と交えた「あおぞらマーケット」や「おおもり食堂試食会」の準備や企画は大変ではなかったですか。

中村：大変なところもありますが、そこは使命感を持ってやっています。これからは、地域にも目を向けて、発信していかなければならないと思っています。

地域の方々にも「施設の〇〇さんに聞いてみようかな」という顔の見える関係作りが大切だと思っています。それができれば、今後の活動にも大きく影響し、良い方向に進んで行ければ良いと考えています。

——参加する農家やお店の方々も企画の話し合いに参加しているのですか。

尾形：話し合いには農家の方々も参加してくれました。

中村:「あおぞらマーケット」については、地域の方々にも参加してもらい、職員と一緒に話し合いを進めていきました。

平成7年から施設の夏祭りを地域の方々と一緒にやってきたという経緯がありました。当時から関わってくれている方々が、今は行政区長など地域のキーパーソンとなり、今でも地域の協力をいただいています。

——この段階で初対面ではなく、元々の繋がりや関係性があつた上で、話し合いを行うと話が進みやすいですね。その他の場面でも、地域の方々と一緒に話し合つて築きあげるといふベースができていると様々なことができそうですね。

施設の職員の方が地域の方々と接する機会があることで、介護を提供する以外での自分たちの役割や施設のことも知ってもらえたり、在宅で介護している方が職員の方の介護方法を知ることではないかと思ひます。それが顔の見える関係だと、よりスムーズに行くのかなと思ひますがいかがでしょうか。

中村:そこまでできたら良いなと思ひます。介護の職員と地域の方々がつコミュニケーションを取りながら、様々な情報交換ができれば良いなと思ひています。その話題提供として、食材であればこつう「あおぞらマーケット」であつたり、福祉機器用具のところで介護に関する話をしたり、そつういったやり取りができたら良いですね。

ただ、他の法人さんですと年に数回、継続してできている施設もありますが、当法人は収穫時期に合わせて年1回の実施です。今後は単発ではなく、複数回できる方法も探つていかなければならないと思ひています。

——1つのイベントをきっかけに、日常の繋がり作りを行うと思ひているということでしょうか。

中村:そつうように思ひています。目的はこのイベントの成功ではなく、イベントを実施することによつて、日常の繋がりができれば良いと思ひています。あくまでも手段といふ所で思ひています。

夏祭りや敬老会といふ施設行事も現在の感染症によつて、職員とご家族との関係作りがなかなかできない状況です。令和2、3年については入所者の方が楽しんでる写真をご家族にお渡しし、コロナ禍だからこそ寄り添つたケアを行えるように、アットホームな雰囲気です夏祭りや敬老会の開催を心掛けました。



夏祭りの様子

— コロナ禍の前は、夏祭りに地域の人たちも参加していたのでしょうか。

尾形：みなさんで一緒に来てくれました。地域の子どもたちも来て、とてもにぎやかな夏祭りでした。

中村：お声がけする地域を広げて、たくさんの人をお招きしたいところですが、敷地面積など施設側の事情もあり、大変心苦しいのですが、近隣の地域にしかお声がけできていません。

当法人で実施している社会貢献事業についてお話をして参りましたが、コロナウイルス感染拡大の影響により、今はこのような形で地域の関わりを保っている状況です。

今後も地域の特性を活かし、地域に根ざした社会貢献事業を行っていきたくと考えています。



— インタビューを終えて —

今回のインタビューを通して、和仁福社会さんが地域の実情やニーズに応じ、地域に根ざした社会貢献活動を行っていることを知りました。地域の方々と共に何かを作り上げることで、信頼関係が生

まれ、地域の方々にとっても心強い存在になっているのだと感じました。

現在コロナ禍によって、人々の行動や人との繋がりが制限されています。その中で、“できない” “やらない”という選択をするのではなく、できる方法を見出す職員の方々の創造力がこのような社会貢献の取り組みに繋がっているのだと思います。

石巻市社会福祉協議会でも、地域との信頼関係作りや職員みなさんの前向きな想いを実現する実行力について等学びを得ることができました。同じ社会福祉法人として、石巻という地域をより良くするためにこれからも共に頑張っていきたいと思います。